

## 「一神教学際研究センター」開設

# 文明の共存担う専門家養成

イラク戦争など「文明の衝突」が懸念される中、異なる文化や宗教への理解が求められている。こうした状況を受け、同志社大では

神学部が中心となり、一神教であるキリスト教、ユダヤ教、イスラム教を総合的に研究する「一神教学際研究センター」を4月に開設した。これまで、これらの宗教を個別に研究した蓄積は欧米にもあったが、一神教として統一的に把握する研究機関はほとんどなく、注目を集めている。

センター長を務める森孝一・神学部長は、「欧米のユダヤ・キリスト教世界とイスラム世界との政治的対立の外部に位置し、中立を保つことのできる日本から、欧米・イスラム双方に向け研究成果を

発信する意義は大きい。一神教を正しく理解し、文明の共存を担うスペシャリストを養成していきたい」と抱負を語る。

研究領域も宗教学のほか、米やイスラム諸国の地域研究、安全保障論や科学史と幅広く設定した。スタッフは17人。今回新たに神

学部教授に就任した3人のイスラム研究者をはじめ、キリスト教やユダヤ教の神学部教員、村田晃嗣・法学部助教授（国際関係論）ら学内他学部の研究者のほか、学外からも白杵陽・国立民族学博物館教授（中東地域研究）、三浦伸夫・神戸大教授（科学史）らが客員

研究員として参加している。日本では、一神教の受容の歴史はまだ浅い。昨今は、「神の絶対性を前提とする一神教は文明の対立をもたらす。天地万物すべてに神が宿るとする寛容な多神教こそ平和共存の力がある」という議論も目につく。

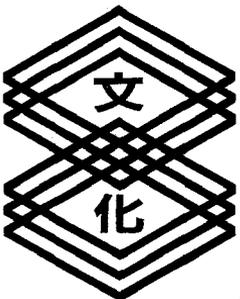
小原克博・神学部助教授（キリスト教思想）は、「多神教に基づく日本文明が、対立を生む一神教

文明に対する解決策になるとする議論は、安易に過ぎ、誤解も含んでいるのではないかと。一神教の本質を明らかにすると同時に、多神教概念への反省も迫りたい」。中田考・神学部教授（イスラム学）は、「世界的にみると、仏教や神道を一神教ととらえる向きもあり、多神教と一神教の二項対立の構図が広く認められているわけではない」と指摘する。

センターでは、比較一神教学会の設立も目指す。新しい研究の展開を期待したい。

10日午後2時から、京都市上京区の同大今出川キャンパス明徳館で、「イラク戦争の深層を探る」と題したシンポジウムを開く。村田、森、中田、小原の各氏が参加する。無料。問い合わせは同大研究開発推進機構研究支援課（075・251・3743）。

（池田洋一郎）



文化

が対立を生む一神教